



## ヨガ教室を併設。 土間の薪ストーブが 暖かな湘南の家

特集  
**火育と  
木の家**

写真：米谷 享 文：上野 裕子

海辺の町として人気の湘南・大磯に、  
ヨガ教室を併設した家を建てた山本瞬さん・紅子さん夫妻。  
自然豊かな地での充実した暮らしを訪ねた。

**薪ストーブがもたらす  
心身のリラックス効果**

大磯駅から徒歩圏内に建つ山本邸。ヨガ教室のスペースを挟むように教室用と家族用、二つの玄関が設けられている。家族

用の玄関を入れると土間が広がり、そこに薪ストーブが据えられている。結婚して間もなく、家づくりを考え始めたという山本さん夫婦。瞬さんは「祖父から引き継いだこの敷地にどんな家を建て

①外観。右側の玄関がヨガ教室用、左側が家族用。②土間のつき当たりにはサーフボードを収納。③ガラス面が大きく炎がよく見えることから、ドブレのストーブを選んだ。





5

6

## 障子の開け閉めで 表情を変える 木と珪藻土の空間

### 家族で炎を眺める あたたかなひととき

山本邸の設計を担当した加賀妻工務店の高橋一総社長は「変形の敷地をいかに活用するかを考えました。北東側が水路に面しているので、広がりと開放感を得るためにウッドデッキを設けました」と話す。また薪ストーブのある広い土間は、玄関ホールでもあり、キッチンとつながるパントリーや、サー

フボード置き場でもある多目的

なスペースとし、限られた面積を有効に使うための工夫をしている。

この家に暮らし始めてから約3年。夫妻は息子の「せんくん」とともに、夏は朝から海に出かけ、冬は薪ストーブで暖をとる暮らしを満喫している。瞬さんは「住み心地がとてもよく、家に帰ってくると五感が喜ぶのを感じます」と微笑む。紅子さんは引つ越して数カ月でアトピーが治ったそうで、それまで住んでいたアパートとの環境の違いを



1

2

3

4

1 ダイニングから玄関を見る。2 ストーブでカレーを温める。3 2階から土間を見下ろす。4 障子を閉めると落ち着いた空間に。5・6 ダイニングは障子の開け閉めで雰囲気が変わる。7 キッチンはステンレスのオーダー品で、前面に収納を設けた。

### 特集 火育と 木の家

るか、二人でゆっくりと考えました」と話す。いろいろと調べる中で出会ったのが、湘南地域で木の家づくりを行う加賀妻工務店だった。「インターネットで知つて完成見学会を訪れたところ、自然素材を使った開放的な雰囲気の住まいが、私たちの建てたい家のイメージにぴったりだつたのです」(紅子さん)。

加賀妻工務店とのプランの打ち合わせの際に夫妻が希望したのは、ヨガ講師である紅子さんが教室として使えるスペースを

設けることだった。「それまではスタジオを借りていたので、教室を併設することは念願でした」(紅子さん)。そのほかにも、二人の趣味であるサーフィンやキャンプの道具を置くスペースや、薪ストーブの設置を希望した。鍼灸マッサージ師として治療院を営む瞬さんは「薪ストーブはリラックス効果がありますし、エアコンと異なり体が芯から暖まるので、新居にはぜひ設置したいと思いました」と振り返る。





10家庭用の玄関。  
11サーフィンのために屋外にシャワーを設けた。  
12薪棚は瞬さんが制作。  
13山本さん一家と、加賀妻工務店の高橋一総社長（後列左）、山田幸生さん（後列右）。



所在地：神奈川県中郡大磯町 家族構成：夫婦+子ども1人  
敷地面積：244.21m<sup>2</sup>  
延床面積：120.72m<sup>2</sup> (1階82.00m<sup>2</sup> 2階38.72m<sup>2</sup>)  
竣工：2019年12月 (工期2019年5月～12月)  
設計：株加賀妻工務店 一級建築士事務所 (担当：高橋一総)  
TEL: 0467-87-1711  
施工：株加賀妻工務店 (現場監督：岩本竜一、大工棟梁：有川健司)  
構造形式：木造軸組工法  
主な外部仕上げ：屋根＝ガルバリウム鋼板  
軒天井＝スギ板張り (垂木現し) 外壁＝モルタル左官仕上げ  
主な内部仕上げ：天井＝杉板張り (山長商店)  
壁＝珪藻土 (日本エムテクス つちかべ)  
床＝スギ厚30mm (益子林業 アンダーベー)  
薪ストーブ＝ドブレ・ROCK



5～7スタジオでポーズをとる紅子さん。  
8ヨガ教室 (<https://nicoyoga.jp>) の看板。  
9煙突の背後に山並みが見える。大磯は海にも山にも恵まれている。



特集  
**火育と  
木の家**

1 土間にアウトドアチェアを置き、壁にプロジェクターを投影して楽しむことも。 2 2階の吹き抜けには障子を設け、季節によって開閉して温熱環境を調整している。 3 2階の洋室。 4 階段を上がったところにPCコーナーを設けた。

実感したという。「ヨガ教室の生徒さんからも『気持ちのいい空間でリラックスできる』と好評です」と話す。楽しみにしていた薪ストーブについては、冬はほぼ毎日火を入れているとのこと。火の管理は瞬さんの役割で「帰宅後夕方に火をつければ、朝もほんのり暖かい。今年で3回目の冬を迎えるが、薪を燃やすコツが少しずつわかつてきました」と話す。薪割りも瞬さんが担当しており、原料となる木は近所の人や加賀妻工務店の薪ストーブユ

ーザーから分けてもらうことも多いという。取材時に薪ストーブに火が入ると、然くんは嬉しそうに「パチパチ」と薪のはぜる音を声に出していた。今後、然くんが成長するに伴い、薪ストーブに興味をもつようになるだろう。「今は僕たちが手を添えて、小さなノコギリを使って焚き付けをつくってみたりしています。いつと一緒に薪割りができるかな」と話す瞬さんの言葉が、これらの家族の明るい日々を物語っていた。

